

刊 夕 日 一 月 五

常 磐 日 新 聞

定 價 一 部 全 五 銭 五 銭 五 銭 五 銭 五 銭
 廣 告 料 五 銭 十 二 字 體 一 行 全 五 銭 五 銭
 日 曜 祭 日 の 日 休 刊
 行 社 常 磐 日 新 聞 社
 行 社 常 磐 日 新 聞 社
 行 社 常 磐 日 新 聞 社
 行 社 常 磐 日 新 聞 社
 行 社 常 磐 日 新 聞 社

童 話 の 指 導 (四)

寺 田 喜 治 郎

桃太郎の話にも犬が出たり雉子が出たり猿が出たりして、いつも

「桃太郎さん、桃太郎さんお腰のものは何でございませぬ」

「日本一のきび團子」
「一つ下さい、お伴致しませぬ」

といふ言葉と類似の事件がくり返されて居ます。今昔物語の中に長谷観音に祈つて福を得た男の話がありませぬが立派な童話です。観音様に祈つた薬すべ一本さづかつた。困つたことだと思つてゐると密柑二つにかへてくれた人があつた。ありがたいことだと思つてゐると或人が白布三反にかへてくれた。これはたすかつたと思つてゐると今度は馬一匹になつたその馬で到頭金持になれたといふお話です。が、童話としてのねらひの所は皆つかまへてゐます。

◇第五は想像の豊富なことです。子供がいかに想像に富んで居るか。尋常二年の子供の作つたものに

小川のかにさん
大きな大きな石の下
おうち作つてはいつて

る
蟹さん五日も立つたのでお腹の下にお子供をたくさん生んだでございませう。

えいえいたくさん産みました。
子供はいたづらしてゐます。

それではさつぱり出られませぬ。

○明日の献立○
○朝味噌汁ーさつま芋
小付 やきものり
【晝】南ばんむし(魚葱玉子)
【晩】カレー粉入り鳴うどん
小付 筍辛煮

菓子をつくれなんていうてしようがないのでございませぬ。

小川の石の下に子供をだててゐる蟹を想像したのであります。「しようがないのでございませぬ」といふのは

「あ、此の作者の母の口吻をそのまゝ真似たものでせう。アラビアンナイトが子供に愛好されるのはいろいろ變つた點に興味を持つからでもありませうが、その最も大きい點は何といつても想像の自由奔放な面白味です。尤もその想像も過度

になつて子供の頭を困惑させる程度のものであつたり大人の想像であつて子供に親しみの持てないものであつたりしてはなりません。

◇第六は探究性の強いことです。子供は大人になるまでに人類が太古から現代に致るまでに経て来た文化の過程を大急ぎで復習するものだといはれてゐますが、全くその通りで、野蠻人種又は未開人種が感じた所の神秘さを子供は夥しく持つて居ります。

常 磐 文 藝

春を求めて

(詩になる風景)

雲か霞か——と歌ふは
衣裳小道具の車を
旅から旅へ運ぶ
旅藝人の群だ
「あの街に着いたら」と
彼は望みを掛けて口をつ
むんだし
それがおかしいと女達は
笑つて
「何處だつて同じことよ」と
云ふ
水車は悠々音を立て
空に風なく
鶯一羽山下に舞ふてゐる


産 婦 人 科 院 長 木 村 寅 次 郎
外 科 醫 學 博 士 内 木 宗 八
藥 局 藥 劑 士 大 岩 俊 雄
平 町 新 川 町 十 九
病 室 完 備 入 院 隨 意
木 村 病 院
電 話 一 六 四 番

石 炭
コークス
豆 炭
阿 部 石 炭 店
平 驛 前
電 話 三 十 七 番

外 科 一 般
内 臟 外 科
花 柳 病 科
肛 門 病 科
レ ン ト ゲ ン 科
物 理 療 法 科
北 川 外 科
平 町 新 川 町 二 七
醫 學 博 士 北 川 芳 夫
醫 學 士 奧 義 弘
技 師 小 林 良 次

皆 様 の 足 ?
尼 子 タ ク シ ー へ も 豆 タ ク が 入
り ま し た
御 立 關 々 關 へ 迅 速 簡 便
是 非 御 利 用 を
市 内 三 〇 錢
市 外 四 割 引
流 線 型 セ タ ン
大 型 貸 切 バ ス
宮 行 直 通 は 二 丁 目 尼 子 自 動 車 部 下
り 發 車 い た し ま す
平 町 二 丁 目
尼 子 自 動 車 商 會
電 話 六 四 〇 番

お 花 見 の ...
折 詰 當
辨 當
是非御用命下さい
錦水
電 話 三 〇 四 番



光 の 春 を 駆 っ て !
皆 様 旅 の ガ イ ド
不 二 の 車 は 待 つ
タ ク シ ー 不 二
未 知 ノ ド ラ イ ブ コ ー ス
オ 問 合 せ 下 サ イ
電 話 三 二 番

和 漆 器 家 具 は 和 久 屋
平 町 三 丁 目
電 話 三 〇 四 番
玉 屋 洋 品 店
平 町 田 町 通 電 話 六 五 六 番



奇怪な申立て

強盗の共犯関係

果して眞犯人は何人か?

▽平署は冤罪と認む

既報去月廿二日湯本地内平署員に檢舉された茨城縣那珂郡檜澤村生れ長岡伊平(三)は同村鬼澤辰之助(三)と共謀茨城縣で強盗を働いた旨自供したので

安藤刑事 部長は去る

廿五日茨城縣に出張鬼澤を逮捕取調るとスラ、犯行を自白した、處が右の強盗共犯には同村の木村宗義(三)が檢舉され木村は水戸地方から

大審院迄 上告して無罪を主張したが却下され懲役五年の刑が確定、水戸刑務所服役中肺の爲め昨年五月から假出獄し自宅療養中で主犯長岡も昨年六月出獄し事件は

完結した 事になつて居るが平署に於ける長岡の自白で木村は冤罪で強盗の汚名をさせられた疑ひが濃厚となつたので安藤部長は廿九日再び茨城縣に出張慎重取調へ昨夜歸署したがこの冤罪か?眞犯人か?をめぐり奇怪な

共犯事件 は強盗共犯

で服役した木村宗義は村内でも中流以上の家名を汚がしたくない處から大審院迄

上告し却下出所するや兄一藏(五)と相談して主犯の長岡とその知人鬼澤を買収し四名がぐるになつて眞犯人の替玉をでつち上げ計画的に 長岡が平地方に入り込んで檢舉されると同時に鬼澤が共犯人だと自白し、鬼澤もスラ、自分の犯行だと自供して木村の犯罪を巧みに隠匿したの

歸らぬ女房に

面當ての自殺

湯本町字三函八右工門長男坑夫佐藤市藏(三)は去る廿九日夜七時頃自宅でカルモチン自殺を圖り生命危篤であるが原因は昨年七月横須賀市田浦中町通りの宗太郎三女伴キヨ子(三)と夫婦約束をし同棲中女の親が病氣で歸國した儘歸つて來ないのを悲觀してゐると

河岸に轉る

屍体の身許

懐中には食券

劇薬自殺か?

箕輪村大字大和地内好間川附近に昨卅日午後五時頃三十才位コーレンの勞働服を着た職工風の男の屍体あ

明日のラジオ

今晩は北東の風 曇り後小雨明日は北南の風曇後晴

今晩の部

後六〇〇 子供の音楽會 吉澤園子他
後七三〇 講演「我國財政の今昔」牧野輝智 九段 精國神社能學堂中繼
後八〇〇 落語 柱文樂 眞山 二〇〇 講演 一龍齋 後八五〇 琵琶吉水錦翁

明日の部

前六三〇 基礎フランス語講座 丸山順太郎
前七〇〇 朝の修養「觀藥自殺らしいが身元が判明しないので照會中

自稱檢事殿 皮をはがれて

留置場へガチャリ

湯本町字笠井飲食店福井亭事鹽田辰三郎方で昨卅日夜九時頃一圓三十五錢の遊興代を請求された男が俄、俺は最近福岡縣から平へ轉任して來た檢事だが巡査駐在所に行けば金が出来ると威

列車飛降り犯人

昨日懲役刑を言渡さる

既報平町ツルヤ洋品店其他十數軒の店頭を荒し二百五十餘圓の窃盜を働き助川方面に逃走したが逮捕され平署へ護送の途中係官の隙を見て幕進中の列車より飛び降り散々手をやかした内郷村大字高坂宇立野五七運搬夫箱崎一郎(三)及共犯同村大字宮字中澤一〇鈴木秀一(三)の兩名に係る窃盜事件

窃盜僧侶捕る

湯本町字上川生れ僧侶赤川正司(三)は廿九日午後三時頃田村郡巖江村橋本元方から

「一寸法師」オハナシクラ

後六、二五 青年の時間
後七、三〇 管絃樂「旗に寄する三部作」日本放送交響樂團
後八、〇〇 尺八 宮川如山他
後八、一〇 小唄 長生秀
後八、二〇 物語「歡喜のフイナー」夏川靜江
後九、〇〇 時報解説「經濟上より見たる日埃日濠問題」谷口吉彦(京都)

軍艦本會の 便乗抽籤

今度は縣で

既報來る廿三日來年度海軍點呼の爲め小名濱に入港する軍艦本會は翌廿四日點呼を執行、午後一時から四時迄一般の觀覽を許し廿五日午前六時同港出帆便乗者六十五名を乗せ、宮城縣水川港に向ふが便乗希望者の抽籤は縣に於て行ふと

裁判所だより

△四倉町字原田自動車運轉手續方與平(三)は去る一月二十八日同町仲町地内國道に於て乗合自動車運轉中折柄通り合した大浦村門馬丑松(三)に衝突頭部に全治八日間を要する打撲傷を負はせ業務上過失傷害罪として罰金三十圓に本日平區裁判所に於て略式命令を以て處

- ### 平職業紹介所報告
- 回 人を求める方
△女中 卅才迄 尋卒 給料二五圓外チツプ
△三助 五十才迄 給五圓
△料理下働 四十才迄 給面談
△賭婦 五十才迄 給五圓
△配達 廿才前後 給五圓
印刷の御用命は 株式 常警毎日印刷會社
△出前持 十五六才 給面談
△難夫 四十才迄 尋卒 給料面談
△難役夫 四十才迄 給五圓外仕着
回 職を求めの方
△石炭配達 卅才迄 給十五圓
△自動車修繕見習 廿五才 高卒
△自動車助手 廿六才 高卒
△事務員 中才 高卒



（橋上談上）
丸尾至陽（書）
悟道軒圓玉（作）

一〇九 一味江戸入り

お花は八白松に向ひ

花「矢切の渡しから川に落ち、下へ流れたが蛇籠にすがつてやうやく這ひ上り堤下まで来ると地蔵堂が目についたからそのお堂に上つて休んでゐると、こゝにゐる甚太といふ人がつづらをついでそこへ来て兼松とかいふ者をむかひに行つたその後で、つづらから着物を出して着てにげようとしたが今もいふ通りつかれてはゐるし足はいたむし、五間とあることが出来なからそこまでこのつづらに入つてこの人にかつがれて行くところまで行かうと決心したのさ」

松「宜い度胸だな、ヤイ甚太、俺はこの姐御をたづねてゐたんだ、着物と人間とかはつてゐたのが判らねえか」

甚「ちつとも気がつかかなかつた、兄い何んでこの女をたづねてゐるさ」

松「それにはわけのあることだがその事はひまな時にゆつくり話してやる、ところで甚太、これはどこからもつて来た、伯母から借りたものとは思へねえさアい



持つて来たな、ヤイ清六」とそこにある矢切の船頭を呼び

松「此兼松のふところをあらへ」

清「野郎、金があるならこゝへ出せ」

百兩にたりねえ金で大事な首をもとで悪事をすると、さりとては無分別な奴だこの金は俺があづかつて置く、また品物はこの金と一緒に返してやる」

青木はお花をたづねながら清六に別れて陸を市川に來て同志のもとに一夜とまることにした、そこへ八百松と清六にお花の三人が來たがこの市川に居つた青木の同志は古田主税と申す者一同こゝで落ちつた、しかしながらこゝにはあられな

松「イヤその事は後に話すこゝでお前に會つたのが幸ひ、すぐに引き上げよう、清六お花さんを船で市川までおつてくれ」

清「承知しました、それでは出かけます」

志、かういふわけで屋敷に出で参つた。

宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

妻コト儀病氣の處卅日午前九時廿分死去致候

追而 葬儀は五月二日午後二時自宅出棺、佛式により長源寺に於て告別式相營可候

四月卅日

平町胡摩澤
花澤久一郎
男
外親戚一同

貴方の御家庭に
本會を御利用下さい

直に家政婦派出します

料金は極めて低廉で

親切 妊産婦の御家庭 御病人の付添 炊事や雑用 年寄やお子さんの付添

派出多忙に付會員至急募集

平町紺屋町二（電話二三番）
上原家政婦會
會主 産婆 上原通子

小瀧へ!!

宿泊料	1.50 2.00 2.50
日歸浴席料	.20
自炊料	.50-.80
料理一定食	.80 1.00

入場料・室料 夜具料一切

（その他一品料理洋食）
効 神痛、リウマチス、胃腸病、婦人病、逆上、中風、肥胖病、痔疾、（内務省東京衛生試験所檢定済）

備 撞球臺、高級ラヂオ、大廣間、讀書室、近代式浴場、洗面所、水部、洗式便所、小動物園、タクシー、御子運動器具

名物 川魚料理（うなぎ、鯉、蜂蜜羊かん）

● 女中數名入用 ●

常磐線湯本驛 小瀧鑛泉
御旅館 瀧の湯
御自炊 瀧の湯
電話（小名濱）103番